

おひざのうえで 2026④

(副園長の子育て応援 Letter)

「手」から見えてくる子どもの育ち

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで



せんりひじり幼稚園では、年間 5 回、大妻女子大学の岡健先生をお招きし、保育の質を高めるための園内研修を行っています。研修の前には、みんなで「今、子どもたちのどんな姿をもっと深く見たいか」「何を学びたいか」を話し合い、研修内容を考えていきます。最近、以前せんりひじり幼稚園で担任を務め、今、岡先生の大学院の研究室で学んでいる、あかね先生が丁寧に研修のコーディネートをしてくれています。そのおかげで、学び合いがより深まり、充実した研修となっています。

7 月の研修テーマの一つは「手から考える」です。子どもたちの「手の動き」を丁寧にみることで、その子の「今育っている力」と「これから育っていく力」を読み取ろうとしました。

例えば、

- ・はさみや鉛筆、お箸はどのように使っているか
- ・折り紙やあやとりで指はどのように動いているか
- ・鬼ごっこやサーキット遊びでは、手や腕、体全体をどのように使っているか

そんな何気ない姿を動画や写真で見返しながら、「どここの力を使っているのか」「どの動きが得意でどの動きが苦手か」「この動きになるのはどうしてだろう」「次の育ちにつなげるにはどんな遊びがあるだろう」「どんな気持ちでいるのかな」とグループに分かれて語り合いました。

子どもの育ちは、一人ひとり違います。ある子是指先の細かな動きが得意で、ある子は全身を思い切り使うことが得意です。また、力の入れ方や抜き方、思い切って体を動かすことに苦手さがある子もいます。だからこそ、「できる・できない」で見るのではなく、「今どんな力が育っていて、どんな経験を重ねると次の一歩につながるのか」、また、「やってみたい」「作ってみたい」という気持ちが自然にわいてくる素材や環境、思わずまねて挑戦したくなる見本の示し方なども保育の工夫として考えています。

研修では、実際の子どもの姿をもとに、「こんな遊びがよさそうだね」という具体的なアイデアもたくさん生まれました。粘土を丸めたりつぶしたりする遊び、紙をちぎって貼る制作、草相撲や指相撲、綱を引っ張る遊び、段ボールカーを力いっぱい引く遊び、泥遊びなど、どれも子どもたちにとっては楽しい遊びですが、実は指先や手首、腕、全身をしっかりと使う経験につながっています。

最近、自動で水が出る蛇口やボタン一つで動く便利なものが増えました。便利になった一方で、蛇口をひねる、ひもを結ぶ、雑巾をしぼるなど、手や指先を使う機会は少しずつ減ってきています。だからこそ園では、「遊び」の中で自然に体や手をたくさん使える環境を大切にしたいと考えています。

「やってみたい！」があふれる園庭へ

園庭にある人気の遊具「がんばの森」は、登る・渡る・ぶら下がる・飛ぶ・バランスを取るなど、さまざまな体の動きを経験できる遊具です。そのため、遊びたい子どもが多く、下で順番を待つ姿も見られます。

そこで、この夏、「がんばの森」の横に**第2のがんばの森**を新設する予定です。

木登りやさまざまな形のうんてい、よじ登る、飛び降りる、バランスを取るなど、多様な運動経験ができる遊具を計画しています。屋根の下では、乳児がぶら下がったり上り下りできる低い遊具も考えています。現在の「がんばの森」を設計してくださった専門業者の方と、たけ先生を中心とした先生たちが何度も話し合い、「子どもたちの『やってみたい！』『もっと動きたい！』をかなえられる遊具」を目指して設計を進めています。

子どもたちは、遊びの中で体を思い切り動かし、挑戦し、できた喜びを積み重ねながら育っていきます。全国的にも乳幼児の運動経験が減っていると言われる今だからこそ、園では豊かな運動経験ができる環境づくりを進めていきたいと考えています。

園では、「たくさん体を動かして育ってほしい」という願いと、「安心して挑戦できる環境を守ること」の両方を大切にしています。これからも、安全への配慮を重ねながら、子どもたちが思い切り遊び、挑戦し、「できた！」をたくさん積み重ねられる園でありたいと思います。

この夏も酷暑の日々になりそうです。暑さのため、屋外で思い切り遊ぶ機会が少なくなる日もあるかもしれません。それでも子どもたちの体を育てる経験は、毎日の暮らしの中にもたくさんあります。一緒に掃除をする、買い物に出かける、料理のお手伝いをする。そんな何気ない生活の中で、指先や手首、腕、体全体を使う経験を積み重ねることができます。そして「思った通りに体が動く」という実感が「やってみよう」という自信や意欲に繋がっていきます。

暑い夏になりますが、ご家族でゆったりとした時間を過ごしながら、子どもたちの「やってみたい」をたくさん応援していただければと思います。

園はこの夏、そら組担任の福原奈央子が、近畿地区研修大会で(大阪府幼稚園連盟のプロジェクトチームの一員として)子育て支援の研究を発表します。また、日本幼児教育実践学会で、ホームクラスから鍛冶和明・澤木京子・行武美晴・安達光らが「預かり保育の豊かな遊びの世界」をポスターにまとめ発表します。

保護者の皆様にとっても、実り多い夏休みとなりますようにお祈りしています。